

太田川源流のブナ林と木地師集落跡を訪ねて・・・

自然観察会



▲巨樹が多く残るブナ林

9月10日に「ブナ林と木地師集落跡を訪れる」自然観察会が開かれました。参加者23名は、午前10時に森林の分校「ふざわ」に集合。なかには埼玉県や白河市、相馬市からの参加もありました。

最初に只見の自然案内人の渡部和子さんが注意事項を述べ、次に鈴木和次郎ブナセンター館長のあいさつがありました。

森林の分校からは、布沢の林道を自動車で、豪雨災害により土砂崩れがあった場所まで移動し、そこから先は林道を歩きました。途中、きれいなブナの二次林、天然林を見ることができました。参加者からは樹木や花の名前など色々な質問が飛び出していました。1時間半ほど歩き、木地師集落跡に到着、ここでは郷土史に詳しい飯塚恒夫さん（坂田）から木地師の生活や集落の歴史について、お話を聞きました。

昼食後、菅家一郎さん（布沢）に木地師集落跡の案内をしていただき、屋敷跡などを見学しました。当時の生活を垣間見たような気がします。墓地には、たくさんのお墓が残されていて、その中には、愛らしい姿の仏様

が彫られているものもあり、その彫刻の技術にも感銘を受けました。

そして田沢川を横切り、ブナ林へ入ると、鈴木館長からブナ林について説明がありました。巨樹も多くとてもすばらしいブナ林で、もう一度訪れたいという思いにつつまれながら、ブナ林を後にしました。

心配されていた雨も降ることなく無事、観察会は終了しました。今回の観察会は動植物の観察に併せ、只見町の歴史の中で、人々と自然との関わりを物語る木地師集落跡も見学、参加者は只見の自然の豊かさを実感しながら、歴史への浪漫を感じる貴重な時間を思い思いに過ごしていました。

＊布沢太田木地師集落跡＊

江戸時代中頃から後期にかけて、50～60年間、この地に暮らしていた木地師たちの集落跡。昭和59年、只見町史跡に指定された。

木地師とは、轆轤（ろくろ）という道具を用いて、椀や盆等の素地を作る、特殊な工人のこととで、山地に居住しながら原料である樹木を伐採し、良材が尽きると他所に移り住むという生活をしていた。



▲鈴木館長によるブナ林の説明



▲布沢の林道を出発する参加者



▲福嶋司先生の講話

第12回ブナセンター講座

「世界のブナ林・只見のブナ林」を学ぶ

9月11日に、ただみ・ブナと川のミュージアムで、第12回ブナセンター講座「世界のブナ林・只見のブナ林」が開かれました。講師は東京農工大学大学院教授の福嶋司さん。受講者は24名で、町内をはじめ埼玉県や郡山市からの参加もありました。世界には12種のブナの仲間が分布していて、それぞれのブナ林の特徴についてスライドを使つての説明がありました。

ヨーロッパの森林ではブナ・ナラが主要な構成樹種で、中でも、ブナが貴重とされ、ブナ林はよく利用されています。子どもころからサマースクールなどで森の仕組みやその大切さを教えられます。そのことで森林との身近な生活ができているとの話があり、さらに、アジア、北米、中東各地のブナ林についても詳しく説明がありました。次に、九州から北海道渡島半島まで、日本の各地のブナ林をスライドで説明。気候や地形によつてブナ林の姿にも様々な特徴があることが分かりました。その中で只見町のブナは、ずっと伸びていて、とても美しい。ブナは贅沢な樹木で土壌条件の良い場所に生育する。只見のブ

ナ林は雪食地形の下部に位置し、他の所にはない特徴を持つ。大事に保護してほしい。と述べられました。また質問コーナーでは、ブナの実の豊凶は世界のブナ林でも見られるが、その変動には地域性が見られることや、日本のブナ林は、ヨーロッパのブナ林に比べ構成する樹木の種類が多いため、種多様性が高いなどと答えられました。

福嶋さんは、最後に「只見町の皆さんにとつて、ブナは普通の木だし、珍しくはないかもしれないが、ちよつとここを離れて見てみると只見のブナ林は大変貴重な存在です。雪食地形とブナの関係、色々な生き物がいること。ブナは伐つて使うだけのもではなく、別の見方をするとブナの大切な役割はたくさんあります。そして只見にはそれを誇れるだけの自然環境があります。今後、それをどのようにに活用していくのか、皆さんも関心を持って考えてほしい。色々な地域文化の源である只見町のブナ林を、さらに探求してみたいかがでしょうか」と述べられ、講座は終了。受講者は改めて只見に存在するブナの貴重さを実感していました。

保育所らんどろく

9月21日に明和保育所で、22日に朝日保育所で、27日には只見保育所で運動会が行われました。

雨天のため体育館で行なった保育所もありましたが、競技が始まるたびに保育所児の元気な声援が会場いっぱい響いていました。

プログラムの中には見に来られた地域の方や、お父さん・お母さん、おじいちゃん・おばあちゃんと協力しながら楽しむ競技も用意され、子どもと楽しく触れ合いながら一生懸命に頑張るお父さん・お母さんの笑顔と本気で競技に臨む保育所児の姿がとても印象的な運動会でした。



明和保育所

会場いっぱい「ガンバ〜！」



朝日保育所



只見保育所

平成23年7月新潟・福島 豪雨災害消防団活動

未曾有の災害となった今回の豪雨災害では大勢の消防団員の方々に協力をいただきました。

消防団の作業は水防活動・救助活動・捜索活動・物資運搬・避難所管理・がれき等撤去などで、多くの作業を献身的に行なっていたいただきました。只見町全地区の消防団員が出動され、作業にあたった人数は、延べ990人となりました。(8月末現在)ありがとうございます。

7月29日深夜の孤立者の救助活動においては、消防団員7名と民間の方1名に9月20日付けで南会津警察署から感謝状が贈られました。

また、南会津町・下郷町・松枝岐村・昭和村・那須町の消防団員の方も、がれき除去等のボランティア作業で延べ250人のご協力をいただきました。ありがとうございます。



▲消防団ボランティア(八木沢地区)

設も多数被害を受け、危険な状態となっており、通常、短時間で到着できる場所も、現在はかなりの時間を要する状態となっています。9月21日から23日にかけては、郡山市からの登山者が遭難され、消防団員、警察官、消防署員ら総勢140名で捜索にあたりましたが、不幸にも遭難者1名が亡くなられました。林道や山奥は土砂崩れなどで危険な状態となっています。入山される場合は、細心の注意をお願いします。

只見高等学校全校生徒

7月29日新潟・福島豪雨災害ボランティア活動

只見高等学校では、7月29日新潟・福島豪雨災害からの一日も早い復旧を支援しようと9月13日に全校生徒がボランティア活動を行いました。

作業場所は、熊倉・叶津・入叶津地区で、生徒はリンドウ栽培地の支柱やネットの除去、ゼンマイ栽培地や田畑に流れ込んだ流木やゴミの除去、側溝の土砂撤去などの作業を懸命に行い、汗を流しました。この日作業を

した生徒は130名、1年2組の中野翔さんは「早く町が復興するよう自分でできることを頑張つてやりたい。困難に負けずみんなで力を合わせ活動していきたい」と力強く話しました。作業された生徒の皆さん、そして先生方、暑いなかありがとうございました。

市町村対抗野球大会

只見町チーム初戦惜敗

第5回市町村対抗福島県軟式野球大会が福島市あづま球場で行われ、初の「初戦突破」を目指した只見町チームが初戦で惜敗しました。過去4回の大会は

に元気を与えたいという選手たちの熱い思いが結集し、限られた少ない時間の中で調整を図って参加しました。

いずれも初戦で敗退。今年こそは、初戦突破を！とチーム一丸となり勝利を願い試合に臨みましたが、古殿町に3対5で惜しくも敗れてしまいました。

参加が決まってから試合までは時間がなく、全体練習は本番直前の2回のみでコンディション的には厳しい状況でしたが、選手のプレーは町民の皆さんに勇気を与えてくれたと思います。

今年、東日本大震災に続き7月29日には豪雨災害が発生。当初は参加が危ぶまれましたが、このような時だからこそ只見町

来年こそは初戦突破を目指すことを誓い合いました。今後の只見町チームの活躍に期待したいと思えます。



▲町民に元気を与えた只見町チーム



▲側溝の土砂を撤去する只見高校生

第1回実行委員会

只見ふるさとでの雪まつり開催決定

只見ふるさとでの雪まつり第1回実行委員会が、9月16日に只見町商工会館で開かれ、関係者24名が出席しました。はじめに、実行委員長の目黒町長より「震災や水害で福島県や只見町は大変な被害を受けました。このような厳しい状況ではありますが、雪まつりを実施し町を元気にしたい」とあいさつがあり、第40回を迎える雪まつりの実施について協議が行われ、全員一致で実施することに決定しました。期間は平成24年2月11日から12日の二日間で、イベント内容などは今後計画されます。最後に目黒町長は「力を合わせ、この大イベントを成功させましょう。皆さんのご協力をお願いします」と述べ雪まつりの実施を確認しました。



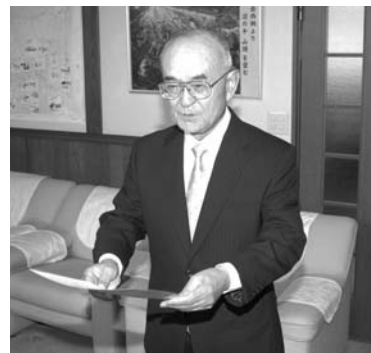
▲あいさつをする目黒町長



▲雪まつりの代表イベント「雪中大神輿」

只見町固定資産評価審査委員会委員に酒井氏

9月30日に、役場本庁の町長室において、酒井竹男氏（只見）に目黒町長から辞令書が交付されました。任期は平成23年10月1日から平成26年9月30日までの3年間で、審査委員は三名で、舟木和一氏（小林）と本名保美氏（黒谷）の任期は平成22年4月1日から平成25年3月31日までです。



▲辞令書を手にする酒井氏

献血協力団体表彰

10月3日に、役場本庁の町長室で伝達式が行われ、献血協力団体に目黒町長から感謝状が手渡されました。目黒町長は「これからも献血にご協力をお願いします。ありがとうございます」と述べました。町内では、只見高校生の皆さんから大勢ご協力いただいております。献血い



▲感謝状を受ける団体代表者



▲献血に協力する只見高校生

- ▼【銀梓感謝状】
- ▼株式会社社会津工場
- ▼只見町役場
- ▼【具赤十字血液センター所長感謝状】
- ▼特別養護老人ホーム只見ホーム
- ▼只見町介護老人保健施設こぶし苑

食育教室
「命の贈り物」

9月30日、只見・朝日・明和保育所の年長児で南会津町の（有）角田ミルクプラントを見学し、乳牛がしぼられる様子を見学したり、子牛やヤギと触れ合いました。その後、そのミルクを使ってみんなでホットケーキを作って食べながら、牛から分けてもらった命の贈り物について感じ合いながら、食べ物の大切さを実感しました。



▲角田ミルクプラントでの見学会